

6・23大統一行動の成功と 青年戦線統一のために すべての青年・学生の大決起を訴える

安保条約を廃棄し、平和・中立の日本を実現しよう

1970・5・23 日本民主青年同盟東京都委員会

TEL (986) 5401~5

全都のすべての青年学生諸君！

安保条約の固定期限終了期六月二十三日が一月後後にちかづいている。

このときにあたり、わたしたち日本民主青年同盟東京都委員会は、日本の平和・中立をのぞむすべての仲間たちに、祖国日本をアメリカ帝国主義に従属させ、われわれ青年に戦争と侵略をもたらす安保条約の廃棄めざして団結してたたかうことを心からよびかける。

十年前、くやしさと怒りで先輩たちがむかえた六月二十三日を、十年後のこの日、決意と確信にみちた巨歩をすすめる第一歩とするために総決起しようではないか。

反動勢力は、「総選挙で安保堅持の国民的合意は成った」と強弁し、沖繩の「施政権」返還（しかも条件つき）を佐藤内閣の「成果」と鳴りものいりで宣伝している。そのかげでやっきとなつてこの日を国民の目からそらしつつ、日米共同声明の路線をおしすすめている。だがしかし、国民は自民党佐藤内閣にすべてを許したわけでは決してない。自民党は三百議席をとったとはいえ、得票率におけるひきつづく減退をいとめることはできなかったではないか。あらゆる世論調査で、「安保の自動延長」は十数%の支持しか得られないではないか。私たち青年はこの事実を自民党佐藤内閣につきつけ、糾弾することがどうしても必要なのだ。いま黙っていることは、こうかつな反動勢力に、みずからの将来を売り渡し、祖国日本がとりかえしつかない重大な事態をむかえる危険を認めてしまうことではないのだろうか。

佐藤内閣は何をたくらんでいるか

安保条約は、六月二十三日以後、アメリカ政府の意向にかかわりなくいつまでも日本の政府の一方的な通告によって一年後に廃棄できるようにする。（同条約第十條）

もし、平和と中立をのぞむ国民の大多数が結集して自民党政府をうちたおし、民主連合政府を樹立するならば、どんな外国の軍事基地もない平和・中立の日本

を実現できるという、あたらしい時期がはじまるのだ。

これにたいして、佐藤自民党内閣は、安保条約の「長期堅持」を決定し、日米共同声明によってみづからの路線を内外に表明した。

日米共同声明は次のような意味で重大な内容を含んでいる。それは、安保条約の長期延長と沖繩の「施政権」返還をむ

すびつけて、サンフランシスコ体制をあたらしく再編する方向をうちだし、このもとで、

(一) アメリカ帝国主義のアジア侵略に日本が積極的に協力加担することを義務づけ、沖繩をふくむ日本本土をアジア侵略のための多角的軍事同盟にたたくみこんだ。

(二) 対米従属のもとでの日本軍国主義・帝国主義復活を、いっそう危険な方向におしすすめたものであった。これが、日本の独立、アジアの平和と民族自決をもとめる人民の要求とまっとうから対決し挑戦したものでなくて何だろうか。

五月一日、アメリカ帝国主義はカンボジア侵略を開始し、ベトナム民主共和国に対して「北爆停止」らしい最大の爆撃を再開した。

ベトナム侵略戦争のインドシナ全域への拡大というこのあたらしい重大な事態は、アメリカ帝国主義の侵略的本性をあらためて明白に示した。本国アメリカをはじめ全世界の人民の怒りと糾弾の行動が、つなみのようにわきおこっている。ところが佐藤自民政府は、恥しらずにも他国にさきがけ、いち早くアメリカの侵略拡大に「理解」を示すことによつて、ベトナムにおける大量さやく殺と自国民の反対闘争への銃弾による弾圧を強行するニクソン政権、メコンの流れを血と死体でかしたロン・ノルマタク一派と同じ立場に立ったのだ。

さらにいままた、アメリカ帝国主義の侵略行動の合法化と、カンボジア反動派への「正当性」をあたえる「アジア会議」で指導的役割をはたすことによつて、ニクソンの政策の忠実な実行者として、また、ふたたび帝国主義的進出をめざしてたちまわっている。

この事実、アメリカ帝国主義の、アジアにおける最大の拠点日本での、安保廃棄、平和・中立をめざすたたかいが、日本人の将来にたいする意義と同時にアジアと世界の平和・民族自決をめざす闘争の重大な一環であることを、いっそう鮮明に示している。

ホワイトハウス前を埋めつくした十数万のアメリカ青年、武器をとって侵略者・国内反動派とたたかうインドシナ諸国の青年と肩をならべ、アジア侵略の拠点

安保廃棄の真のみちすじ—統一戦線

このような歴史的な時期だからこそ、共産党・社会党を中心として、すべての民主勢力が団結し、持続的な共同行動をおこすことがきわめて切実かつ重大になつてゐる。

民主勢力の団結が実現し、国民の多数の支持のもとに国会の議席の過半数を占めて民主連合政府を樹立するならば廃棄通告によって安保条約は適法的に廃棄することが出来る。

そして、この道こそいちはん現実的な方向なのだ。

だから、いますべての青年と青年組織にもとめられてゐる歴史的な使命は、安保廃棄めざす大闘争の先頭に立つとともに、広範な民主勢力が団結して持続的な共同行動をおこせる組織—安保廃棄・沖繩全面返還めざす統一戦線をつくりあげる先頭に立つことにある。

もし、このたたかいが六月二十三日だけの「一日共闘」におわるならば、日本人民の課題に真に答えるものにはなりえないだろう。

現在民主勢力の統一は、何ものにも優先すべき課題であり、その実現の可能性はすでにきりひらかれつつある。

日本、その中心地東京の青年学生が立ちあがることは、反動勢力にたいする重大な打撃、たたかう諸国民人民にかぎりないはげましをあたえるものになるだろう。

世論の圧倒的多数は、安保条約の自動延長に賛成してゐる訳ではなく、日本の平和・中立をのぞんでゐる。また、今次春闘を「盛りあげられない春闘」にしようとした資本の意図に反して、四月三十日の統一ストライキをはじめとしたたかま

りを実現した教訓は、政府独占の搾取・収奪によって、文字通り圧倒的な労働者の怒りと不満がおさえ切れなほど充満してあり、これらの要求を結集するならば、圧倒的なエネルギーに転化できるとを示している。

なによりも、京都府知事選挙で、劣勢と伝えられた嵯峨川知事が勝利した事実は共産党・社会党を中心とした民主勢力が政策的・組織的な団結をつくりあげ、平和と民主主義をのぞむすべての人々に大胆にはたらきかけるならば、自民・公明・民社の三党の反共・反動の連合にたいして勝つことができることを証明した。都知事選挙、沖繩の三大選挙に加えて今度の府知事選挙でかちとつた勝利のこの教訓は、七〇年代における政治勢力の再編成というあたらしい事態のもとで、きわめて貴重なものである。

東京におけるたたかいの重要な意義

この闘争における首都東京の民主勢力の役割は、きわめて重要である。

人口の二割が集中する東京はまた、政治・経済・軍事などあらゆる面での中心である。だから東京での闘争は、政府にたいして大きな打撃を与え、全国のたたかいをよびおこす。このことは歴史的に証明されている。

六〇年における東京での共闘組織の結成は、安保闘争を国際的・歴史的規模に飛躍させた安保反対国民会議の結成に大きな影響をあたえた。また、三年前に美濃部知事を実現した「明るい革新都政をつくる会」の教訓が沖繩・京都と引きつがれてゐることはわれわれの記憶にあたりし。

首都東京の青年・学生は、こうした栄えある任務の一翼をにないつつ、七〇年の初頭をたたかいてきた。四・二八沖繩デーには、数万にのぼる青年・学生が、集会成功の先頭に立った。五月九日、アメリカのカンボジア侵略拡大にたいする緊急抗議集会でも、青年学生はその主力となつて、アメリカ大使館への抗議の闘争をくりひろげた。

キリスト集団を孤立させ、民主勢力の共同闘争の、戦闘の一翼として立ちあがっている。いま、全国青年集会実行委員会のよびかけた「第四回全国青年学生集会」（五・三〇〜六・一）の成功をめざす集会が各地でひろがっている。職場・地域・学園にうずまく青年の怒りと不満が結集され、安保廃棄と要求実現の決意が結集されてゐる。六・二三大統一行動むけての総決起の運動として、ひろがっている。これらの諸闘争の前進は、六・二三をあらたな起点とする国民的闘争と、持続的共闘の実現のための、条件と可能性を著実にきりひろきつつあるといえるだろう。

すべての青年学生は、いまこそ立ちあがろう

私たち民青同盟は、この間の青年・学生のためには確信をもちつつこの重大な時にあたり、すべての青年学生諸君とすべての民主的・自主的青年組織に心から訴ふる。

私たちの未来をめぐる歴史的選択がせまられてゐる現在、すべての民主的・自主的青年諸組織が、国民的大闘争の栄えある任務をはたすことをよびかけるものである。

一、安保廃棄・「核も基地もない真の沖繩の返還」を要求するすべての青年と青年諸組織が、六月二十三日を期して大集会をひらき、国民的大闘争への第一歩としよう。この大集会の成功をめざす青年学生総決起集会（六月十三日・日比谷野外）に結集しよう。

二、すべての職場・地域・学園で、ストライキ・職場集会をはじめとして大討論・大学習・大宣伝をまきおこし地域的・産業的統一行動、廃棄通告署名、廃棄通告宣言などの活動を展開し、安保条約について審議する臨時国会を六月二十二日以前に召集することを要求

し、安保廃棄の一大世論を形成する創意的な活動をくりひろげよう。

三、労働青年の合理化反対闘争、学生の大学教育の反動的再編に反対する闘争をはじめ、青年の生活と権利を守る闘争を、職場・地域・学園ぐるみの闘争にたかめ、これを安保廃棄の大きな流れに合流しよう。

四、全民主勢力の統一戦線の結成めざしすべての自主的・民主的青年諸組織は青年戦線統一を実現し、全国民的団結の先進的役割をうけよう。

その生涯の、多くの部分を未来にたくすわれわれ青年は、誇りに満ちてその建設に参加できる日本の実現のためにいまこそ立ちあがらうではないか。真に日本人民の歴史を書きかえる闘争に参加することほどさういふ使命は他にあり得ないのではなからうか。

私たち民青同盟は、この闘争の先頭にたち、すべての青年学生諸君とともに全力をあげてたたかいぬくことをちかうものである。

スローガン

○アメリカ帝国主義のカンボジア侵略、ベトナム侵略戦争のインドシナ全域への拡大糾弾、佐藤内閣はアメリカの侵略拡大行動に協力加担するな！

○安保条約廃棄・核も基地もない真の沖繩返還を実現しよう！

○六・二三大集会を成功させよう！

青年学生総決起集会（六・一三）に結集しよう！

○全民主勢力の持続的共闘の実現を！

首都の青年戦線統一を一日も早く実現しよう！

民主青年新聞

をよもう！

すべての青年に生きかたを示し、勇気を与える

週刊・一部二五円・月一〇〇円

申し込みは都・地区委員会 またはお近くの同盟員へ